

平成30年度県立勝田工業高等学校自己評価表

目指す学校像	教育活動全体を通して、生きる力を身に付けさせ、心身ともに健康で豊かな人間性を備えた生徒の育成を図る。また、ものづくり教育を通して、グローバルな時代に主体的に対応できる創造力を備え、地域や産業社会に貢献できる有能な人材の育成を目指す。					
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標		達成状況	
＜成果＞ ・平成29年度本校総合工学科を卒業した生徒のうち約70%が就職(内定率100%)し、30%が進学している。 ・資格指導・ものづくり競技会での活躍、様々な広報活動等により、平成30年度入学選抜において志願先変更後の志願倍率が1.09倍であった。 ・生徒の問題行動による指導件数が少なく、頭髪・服装指導における協力体制が維持されている。 ・学校行事における生徒会活動は活発に行われ、部活動加入率も70%程であり、運動部・文化部と共に活発に活動している。	的確なキャリア教育の推進	①地元企業等との連携事業や企業体験学習を拡大・充実させ、確かな学力(生きる力)を身に付けさせ主体的な進路選択ができるようにする。 ②大学等との連携事業、大学の出前授業、自校での進学補講等の充実を図り、国公立大学への進学を含め希望する大学への合格を目指す。 ③段階を追ったキャリア教育を通して勤労観や職業観の育成を図り、就職希望者の内定率100%達成、進学希望者の合格率100%達成を目指す。		A		
	個性を生かす充実した教育の実現	④単位制総合工学科として適切な教育課程の研究と実践に努め、授業規律の確立と基礎学力の定着に努めながら、個々の生徒の専門性の深化を目指す。 ⑤基礎資格の合格率アップを目指すとともに、電気工事士や技能検定等の高度な資格取得への合格者を増加させ、ジュニアマイスター取得30名を目指す。 ⑥言語活動の充実を通して、コミュニケーション能力を高め、グローバル化した社会に対応できる人材を育		B		
	豊かな心の育成と安全教育の推進	⑦基本的生活習慣を確立させ、規範意識の醸成と問題行動の未然防止を図る。 ⑧施設設備の点検と安全教育を充実させ、学校事故撲滅を目指す。 ⑨ホームルーム活動の活性化と、学校教育全体を通じた道徳教育の推進及び、ボランティア活動の充実を図り、いじめ問題等の未然防止に努める。		A		
	部活動・特別活動の更なる活性化	⑩部活動への積極的参加を奨励するとともに、生徒の自主的活動の活発化と学校行事への主体的な参加を促す。 ⑪特別活動の充実を図り、学校行事等を通して自発的・自治的な態度の育成に努める。		A		
	充実した広報活動の推進	⑫開かれた学校づくりを目指し、中学校への出前授業や公開授業を実施するとともに、学校のホームページを通して地域や保護者・中学校等へ情報を発信することで、本校の特長をアピールする。 ⑬PTA行事等の保護者への周知を図り、参加を促すことによりPTA活動の活性化を図る。		B		
＜課題＞ ・基礎学力の定着と授業や学習への取組の充実及び個々の生徒の専門性を高める指導体制の確立及び定着化が必要である。 ・体系的なキャリア教育を推進し、生徒一人一人が希望する進路の実現を目指す指導の更なる充実が必要である。 ・登下校の際や校外における問題行動の把握に努め、生徒理解を踏まえた生徒指導を実践していく必要がある。						
	具体的目標	具体的方策		評価	次年度(学期)への主な課題	
教	国語	基礎学力の向上を図る。	社会人として必要な国語常識を身につけさせるために、教科書だけでなくテキストを積極的に活用する。また、各学年で課外や補講などを実施し、個別指導を含めた丁寧な指導支援を行う。	④⑦	B	基礎学力向上のため、ドリル的な課題を課し、生徒に提出させてきたが、全員提出するまでに時間を要する点を改善したい。漢検受験者の増加と、合格率向上に向け、生徒全体の基礎学力の底上げと、取得への意欲喚起に向けた工夫が必要である。
		授業の改善を目指すとともに、その研鑽に努める。	授業でのルール及びマナーを身につけさせるとともにノート等を定期的に点検し、授業に対する真摯な取り組みを習慣づけさせる。	④⑦		
		担当者全員が授業を公開し指導方法や内容について研究協議を行い、授業の充実と改善に取り組むとともに、各種研修会等に参加し、自己研鑽に努める。	⑥			
科	地理歴史	基礎学力の向上を図る。	授業を受けるマナーを向上させ、基礎基本の学力の習得を図る。	④⑦	B	歴史教育を進めていく上で必要な知識として、地理的分野の教材を取り入れる積極的な取り組みの工夫を今後も引き続き行う。
			学習ノートを定期的に確認する。	④		
			学習内容の理解が不十分な場合は、補習や課題など計画的な指導を行う。	④		
		指導方法の工夫と研究を行う。	学習意欲を高める指導を工夫する。	④		
			分かる授業のための指導を工夫する。	④		
			教材や資料を積極的に活用する。	④		
			IT機器を必要に応じて積極的に活用する。	④		

教

教科	英語	英語を通じて積極的にコミュニケーションを図る態度を身につけさせ、基礎的な能力を身につけさせる。	毎時の授業を通して円滑なコミュニケーションのとれる生徒を育てる。	③	B	B	・ 基礎的な文法力と語彙力の定着に向け、繰り返し学習を重ね、意識の向上を図り、更なる定着をさせる必要がある。
			基礎的な文法力と語彙力を身につけさせる。	④	B		
			リスニング検定などを有効に活用し、実践的な英語力を身につけさせる。	④	B		
		異文化理解を深める。	ALTとのTeam-Teachingや英語による授業を展開することにより、英語に多く触れさせる。	⑥	B		
	家庭	自分の生き方に関わる内容を学習することで、各生徒が常に「今」より充実向上した生活が図れるような能力と実践力を育む。	生涯発達の視点で、家族や家庭生活のあり方を理解させ、家庭を築いていくことの重要性を認識させる。	④	B	B	・家族の重要性や、衣、食、経済、環境等の知識の理解をさせることは出来た。生徒自身の生活を、常に「今」より充実させ向上した生活が図れるような実践的活動が出来るよう努力したい。
			家族の生活が健康で安全に営むことが出来るように、衣・食・住・環境に必要な知識と技術を習得させる。	④	B		
			ホームプロジェクトや学校家庭クラブの意義を理解させ、実施方法を学ぶことで、自ら生活の改善向上を目指すことが出来るような実践力を身に付けさせる。	④	B		
	総合工学	教科指導の充実および基礎学力の向上と基礎技能技術の習得。	各科目の指導内容について長期的な計画を立て、わかりやすい授業・実習に心がけ、専門教科としての基礎的重要項目を理解させる。	①④⑤	B	B	・施設設備の充実 ・実習室の整備 ・実習内容・形態の検討 ・実習指導書の充実 ・資格取得指導体制の充実
			実習における技術・技能の習得に努める。大学等との連携事業を実施しキャリア教育の充実を図る。	①②③	B		
		安全教育の徹底。	実習服の着用・作業終了後の清掃・安全教育の徹底に努める。	⑦⑧	B		
			施設設備の整理、安全点検に努め、カリキュラムに対応した設備の充実を図る。	④⑧	B		
		各種資格取得の奨励。	各種資格取得指導について中長期的な計画を立て、丁寧な指導を実施し、合格率の向上を図る。	⑤	A		
科	道徳	自他の生命や人権を尊重する精神と、公共のマナーについて考えさせる。	基本的な生活習慣の確立と集団としての自覚をもち、善悪の判断ができる生徒の育成を目指す。	⑦	B	B	地域社会に貢献できる人材を育成することを目標として、全教職員が授業に臨み、生徒も取り組むことができた。2学年での「道徳プラス」においても学年と連携してよりいっそう充実したものになりたい。
		何事にも誠意をもって取り組み、やり遂げることの重要さを意識させる。	本校の校訓である「正しい判断・強い意志・清い生き方」に自覚と誇りをもち、将来地域社会に対して積極的に奉仕できる人間の育成をめざす。	⑨	B		
教務		単位制教育課程の円滑な実施。	各校務分掌、科、学年、教育課程検討委員会と連携を図り、授業時間の確保、教育課程の問題点の把握等を行い、教育課程の円滑な実施を図る。	④	B	B	・教育課程の円滑な実施を推進し、授業時間の確保を進める。 ・学年等と連携して、欠時数の多い生徒に早めの対応をする。 ・積極的な広報活動を継続する。 ・PRビデオを作成をする。 ・新校務システムへの円滑な移行。
		学校運営支援システムの運用と情報管理部との連携協力。	情報管理部との連携協力体制を強化し、表帳簿等の整備、改善を図る。また、支援システムの運用による出欠状況管理で生徒の基本的な生活習慣の確立を目指す。	⑦	B		
		学校広報活動の充実。	広報委員会、進路指導部、特活指導部と連携し、中学生対象の学校説明会、体験学習、中学校訪問を計画的に開催し、学校だよりの定期的な発行を行う。また、学校パンフレットの充実を図る。	⑫	B		
情報管理		単位制導入による各種管理システム運用の推進。	単位制の導入に伴い導入した学校支援システムの円滑・効率的な運用を図る。	④	A	A	・HP更新依頼手順の見直し ・インターネットを活用した広報活動などについては今後も整備に努める
		個人情報取扱規程の整備。	校内個人情報の取り扱いについて、持ち出し禁止区分を明確にする。	⑧	B		
		インターネットを活用した広報活動の推進。	本校Webページの更新を行い開かれた学校づくりを目指し、本校の特徴をアピールする。	⑫	B		
		緊急情報メールの管理。	緊急情報メールの登録者を管理し、学校からの緊急連絡や、情報を配信する。	⑬	A		

庶務	PTA総会等各種行事の連絡を、PTA会員やPTA役員に対し確実に言い、連携を密にする。	PTA総会等各種行事の連絡を、できるだけ早い時期に確実に、PTA会員やPTA役員に対して言い、各種行事等への参加率を高める。	⑬	B	B	企業見学会では、1社は大企業へ行けるよう早めに要望する。実行委員会を計画的に開催し文化祭企画の運営を円滑に行う。新1学年からのPTA役員選出方法を検討する。本年度から支出内容を見直したPTA予算の適正化を継続する。
		PTAの広報紙を通して、学校の教育活動やPTA活動を工夫しPRする。	⑫	B		
学習指導	基礎学力の向上を図るとともに進学希望者の更なる学力の向上。	基礎学力不足の生徒に対し補習等を実施し、学力の底上げを図る。進学希望者については進学課外や出前授業に参加させることにより、進学意欲を高め、更なる学力の向上につなげる。	④	B	B	資格取得においてフェニックス取得37名と目標の30名を超えることができた。 出前授業の参加者数については昨年度より17名増の113名の参加をえられた。 教育支援システムの導入を鑑み、選択科目の登録・資格取得のまとめを効率よくできるように考えていきたい。
	選択制を生かした学習意欲向上。	保護者との連携を密にし、生徒に卒業後の進路を考えさせ、その進路につながる選択科目を自ら選ばせることで、学習に対しての意欲を高める。	④	B		
	資格取得の推進。	関係部署と緊密な連携をとり、顕彰制度の利用により資格取得への意欲を高める。	⑤	A		
特別活動	生徒会の自主的な活動を促進させる。	生徒会が中心となり各種行事を行い、自主的・積極的に企画運営できるように努める。更に、何事も計画的かつ効率的な行事の遂行に努める。特に文化祭では綿密な計画と円滑	⑧⑨ ⑪	B	B	学校行事等事故もなく良くできた。生徒会をより主体的に、より積極的に活動できるようになりつつある。更なる向上を目指し指導していきたい。また、部活動加入率が若干低下してしまった。部活動の活性化を図りたい。
	ホームルーム活動を活性化させる。	年間計画に基づき各ホームルームの活性化を図るとにより一層具体的な活動が行えるように努める。また、各分掌から出されるテーマをLHRに反映し効率的な学級活動を展開を	⑧⑨	B		
	部活動への積極的参加を促す。	各部活動資料を活用し、実演などを取り入れたPRを行う。また、部活動参加率が全生徒の70%以上になるように働きかけ、活発な部活動およびレベルアップを目指す。	⑩	B		
生徒指導	基本的な生活習慣と規範意識の確立を図る。	基本的な授業態度の育成、学習習慣の確立、遅刻の減少を図る。(遅刻カードの活用)	⑦⑨	B	B	生徒への規範意識の向上を集会等を通し、高める。LHR等でいじめ防止の話を始め、交通問題での自転車運転マナー・ルールやSNSによるスマホ・携帯のマナーについて取り組んでもらい生徒の事故・問題行動を未然に防ぎたい。今年はSNS講話を入学生のみで実施していたが時期をずらして全校生徒で講話を企画した。生徒のマナー・ルールが向上することを期待したい。
		登校指導・昼休みの巡視を1日2名で通年実施する。また定期考査中の校外巡視の実施。	⑦	A		
		HRにおける交通安全教育、交通講話(外部講師)・バイク指導、自転車点検等の実施により交通マナーやルールを守る心を育て、命の大切さを呼びかける。	⑦⑧	B		
		薬物乱用防止教室を実施する。	⑦⑧	A		
	工業人として清潔な頭髪服装容儀等における規範意識の高揚を図る。	全職員で服装容儀等における規範意識の高揚を図る。	⑦	B		
	学校教育全体を通じた道徳教育を推進する。	心の教育を進め、他人を思いやる豊かな心の醸成に努める。また、いじめ防止および早期発見のため「生活アンケート」を利用し生徒への実態把握に努める。	⑧⑨	B		
		携帯電話の使用制限を守り、マナーある使い方を指導する。	⑦⑨	C		

進路指導	望ましい職業観・勤労観を育成する。	学年と連携し1年次より計画的な進路指導を行い、自己の能力・適性を生かし望ましい職業観を育成する。①②③	B	A	・3年間を通した進路指導計画充実 ・学年と連携しLHR等の時間を利用し早い時期からのキャリア教育の実施を図る。 ・1年次からの進路ガイドブック活用 ・地元企業との情報交換 ・全職員による面接指導の継続 ・進路決定者による下級生への体験講話の継続 ・ネットワークを活用した生徒への進路情報提供の拡充
		インターンシップ(就業体験)などを通して、職業観・勤労観の形成に努める。①②③	A		
	生徒一人ひとりの進路希望に応じた進路指導の充実を図る。	企業への求人要請を進めるとともにそれぞれの企業が求める人材の的確な把握に努め、就職希望者の早期合格内定率100%を目指す。②③	A		
		進学希望者が学部学科を適切に選択できるよう大学・専門学校との情報交換を進める。②	B		
		3年次との連絡を密にし、保護者会や三者面談で進路に関する情報を積極的に提供する。①②③	A		
	地域との連携を深め、地域が求める人材育成を図る。	ひたちなか商工会議所やひたちなかテクノセンター等との連携を図り、企業が求める人材を育成するとともに、就職時のミスマッチの解消や早期離職の防止に努める。①	B		
保健指導	危険防止と環境整備のために清掃活動や校内安全点検を継続実施する。	環境整備委員会を中心に全学年一斉清掃・環境整備に取り組む。また、安全点検表を利用して清掃分担ごとに月一回の点検を行い、改善すべき箇所がある場合には迅速に対応する。⑧	A	B	校内の安全・衛生と生徒・職員の健康な生活を維持するための取り組みを引き続き行っていく。
	生命尊重に関する教育の充実。	全学年を対象に講話を実施する。1年次を対象に性教育・AED講習等、専門講師を迎えて実施する。⑨	B		
	心身ともに健康であるための保健情報広報の充実。	衛生や・健康に関して生徒に知らせたい情報をわかりやすく伝えるために、資料を利用するなどして啓蒙・広報活動に努める。⑦	B		
図書	情報提供サービスの向上と充実を図る。	レファレンスサービス、リクエスト予約サービスの充実にも努める。④⑤	B	B	・生徒の興味を引くよう、図書の選定を行ってきたが、特定の図書にばかり人気が集まり、幅広い読書につながっていないのが現状である。改善に努めたい。 ・図書委員がクラスとのパイプ役を務めてくれた。日常の活動でもその役目が果たせるよう工夫が必要である。 ・視聴覚室の機器が刷新され、使い勝手がぐいに向上した。更なる活用を促していきたい。
		生徒の知的好奇心と興味を抱かせる書籍の選定と購入に努める。④⑤	C		
	図書委員会活動と行事の充実を図る。	図書委員会活動を通じて図書館とクラスのパイプ役としての意識を高める。⑨	A		
		読み聞かせ体験を通じた幼稚園との交流により社会性を学ぶ。⑪⑫	A		
		読書会や研修会、芸術鑑賞会等の行事の充実にも努める。⑩⑪	B		
	施設の有効利用と環境整備の充実を図る。	自学自習の場としての図書館の利用を促進する。①②③	B		
1年次		利用簿等の活用により、授業・LHR等で視聴覚室の利用促進を図る。④⑨	B		
	協調性や他人を思いやる豊かな心を育てる。	積極的に学校行事に参加させ、協調性や思いやりを身に付けさせるとともに、集団生活の中で責任ある行動がとれるようにする。自分の存在意義を認識させる。⑨⑪	A	B	高校生としての自覚がまだ低いのか、欠席の多い生徒が、目立つ。SNSのトラブルなど、まだ規範意識が低さが感じられる。基本的生活習慣の確立、維持を引き続き指導したい
	基礎的・基本的な知識・技術・技能を身に付けさせる。	真摯な態度で授業に臨ませる。提出物の期限を守らせる。資格・検定試験に意欲的に取り組ませる。③④⑤	B		
	基本的生活習慣を確立させ健全な高校生活を送らせる。	時間を守り、自主的に挨拶・返事ができるようにする。身近なルールやマナーを守らせ、安全で安心な高校生活を送らせる。⑦⑨	B		

2年次	健康管理に心がけ、何事にも全力で取り組むことのできる意欲と体力を育成する。	自己管理力を養う。規則正しい生活ができるように高校生としての自覚を持たせ、規範意識の向上に努める。また、社会的信頼の大切さを認識させる。毎日の清掃と教室の整理整頓を徹底させる。 ⑦	A	A	・学校生活全般にこれまで以上に積極的に取り組ませる。 ・進路について自主的に考え行動し、納得のいく決定が出来るようにサポートしていく。
		高校生活における身体的・心理的な安全を最優先させる。そのため保護者との連携をとる。 ⑧⑬	A		
	将来を見通し、高校生活の中で得られる知識・技術・技能の習得に努めるとともに、豊かな社会性を身に付けさせる。	授業第一を徹底し基礎学力を身に付けさせ、知識・技術・技能の習得を資格取得を通じて行う。期限の厳守。 ④⑤	B		
		部活動や学校行事への積極的な参加を呼びかけ、委員会や係の仕事・修学旅行・野球応援等を通じて学校やクラスへの帰属意識を持たせる。 ⑨⑩⑪	A		
3年次		インターンシップ・工業現場実習・企業見学等を通して職業意識を持たせ、進路決定の準備を始めさせる。 ①③⑥	A	B	・業者を利用した全体、グループ面接練習を夏休みを利用しながら実施したことは生徒の刺激になった。 ・学校全体での面接練習の回数を多くし職員全体で指導・支援できる体制が望ましい。 ・生徒の進路に関しては現実を把握させ適性・能力にあった進路先を決める必要がある。 ・12、1月に就職内定者による1・2年生への講演会を各クラスで行った。3年生にとっては人前で話す良い機会であり、3年生自身も話をしたいという者がいる。1・2年生には自身の進路を考える良い機会となった。 ・1年生2年生に多くの先生方から機会ある毎に就職状況についても説明することで意識の高揚をはかれると思われる。
	一人一人の適性を踏まえた上で、具体的な進路目標を現実のものとしていく。	進路指導部と連携し、社会の現状を把握するとともに、昨年度の適性検査をもとに、自分自身の適性を冷静に判断させ、生徒の能力・適正に応じた進路指導を推し進める。 ①②③	A		
		保護者と密なる連携を取りながら、学校生活の安全を最優先させ、きめ細かい助言をしていく。 ⑦⑧	A		
		授業に真剣に取り組むことにより、知識・技術・技能のさらなる習得に努めさせる。また、課題テストを通じて基礎力の充実を図る。 ④⑥	B		
学校運営	ひとりの人間としての社会常識を身に付けさせることはもちろんのこと、他人を思いやる心を育てる。また必要に応じて我慢強さと忍耐力を発揮できるようたくましさを育成する。	校則や公衆道徳を尊重し、進んで守ることにより、社会規範意識の向上を図る。 ⑦⑨	B	B	・地域の中学校との交流事業や広報活動を通じて中学校との連携を図ることが達成できているが、今後もさらなる広報活動の拡張に努めたい。 ・地元企業や大学等との連携を推進し、進路指導・キャリア教育の充実を図ることが達成できているが、今後も充実に努めたい。
	豊かな心の教育の充実を図る。	道徳教育や細やかな生徒指導を通して、基本的な生活習慣を確立し、規範意識を高めるとともに、いじめなど問題行動の未然防止に努める。 ⑦⑨	B		
	情報教育と国際理解教育の推進を図る。	授業や各種行事を通じて情報教育と国際理解教育を積極的に推進する。 ④⑥	B		
	地域の中学校との連携を図る。	地域の中学校との交流事業や積極的な広報活動を通じて中学校との連携を図る。 ⑫	B		
	地元企業や大学等との連携を推進する。	地元企業や大学等との連携を更に推進し、進路指導・キャリア教育の充実を図る。 ①②③	A		

※評価基準： A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない